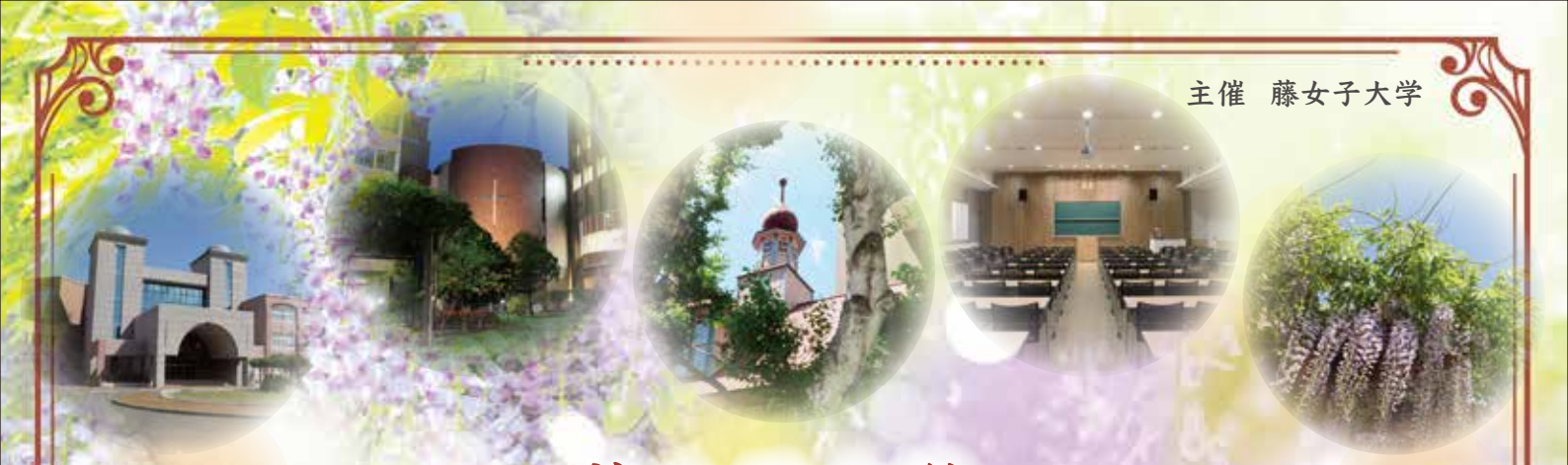
主催　藤女子大学



藤女子大学
未来共創フォーラム 2021

参加費無料／Zoomによるオンライン開催

第2回　10/30 土 13:30～15:30

テーマ「予測困難な社会を生きる子どもたちの育ちを保障する保育・教育とは」（子ども教育学科公開講座）

現在私達は、大規模な自然災害、新型コロナウイルス感染症の蔓延など、これまでに経験したことがない事態を乗り超えなければならない状況下にあります。その中で、保育・教育には、自己の経験知だけでは対応できない予測困難な社会を歩んでいく子どもたちの育ちを保障することが求められています。本講座では、コロナ禍にある保育・教育現場の実情等を踏まえ、子どもたちの確かな育ちを保障する保育・教育について考えていきます。

対　象　本学学生及び卒業生、幼稚園・保育所等関係者、小学校関係者、テーマに興味をお持ちの方

参加申込　お申込みは随時受け付けます。下記URLまたはQRコードからお申込みください。
https://forms.gle/g3RkutmkQjPYJakP9

申込締切　10月26日（火）［お申込みいただいた方へ、10月28日（木）にメールにてZoomのURLをお送りします。］

第3回　11/27 土 13:00～15:00

テーマ「文学研究から未来を考える――女性、環境、貧困」（英語文化学科公開講座）

本シンポジウムでは藤女子大学文学部英語文化学科の三人の教員が、それぞれの研究や授業で扱っている内容の発表を通して、ジェンダー、環境、貧困といった現代社会の問題と文学研究がどのように向かい合っているかを紹介します。普段あまり接することがない文学研究の視点から、未来のあり方について皆さんと考えていきたいと思います。

対　象　本学学生、本学卒業生、地域の方、テーマに興味をお持ちの方

参加申込　お申込みは随時受け付けます。下記URLまたはQRコードからお申込みください。
https://forms.gle/n7Dp8XZ468drEBtp6

申込締切　11月23日（火）
［お申込みいただいた方へ、11月25日（木）にメールにてZoomのURLをお送りします。］

お問い合わせ　藤女子大学 FUJI WOMEN'S UNIVERSITY　総務課　shakaikouken@fujijoshi.ac.jp　011-736-0311（代表）

パネリスト・講師ご紹介

第2回 10/30 土 テーマ「予測困難な社会を生きる子どもたちの育ちを保障する保育・教育とは」（子ども教育学科公開講座）

笹山 雅史（札幌市立かっこう幼稚園長）

大学卒業後、札幌市立幼稚園教諭を経て、札幌市教育委員会幼児教育センター指導主事。札幌市立あつべつきた幼稚園長、札幌市立もいわ幼稚園長を経て、令和３年４月より現職。永く幼小の連携・接続の実践研究に取り組んでいる。

野切　卓（札幌市立伏見小学校長）

大学卒業後、札幌市立小学校教諭を経て、北海道教育大学附属札幌小学校教官。その後、札幌市教育委員会指導主事、札幌市教育委員会幼児教育センター担当課長を経て、令和３年４月より現職。永く図画工作教育の実践研究に取り組んでいる。

庄井 良信（本学人間生活学部子ども教育学科 教授）

大学院教育学研究科を修了後、広島大学助手、県立広島女子大学助教授、北海道教育大学大学院教授を経て、令和２年４月より現職。専門は臨床教育学。北欧フィンランドの大学と協働で、保幼小接続期のカリキュラムの開発を臨床教育学の立場から研究している。

コーディネーター

大室 道夫（本学人間生活学部子ども教育学科 教授）

札幌市立小学校教諭を経て平成30年4月より現職。生活科の学習を軸に保幼小の連携について研究を進めている。

第3回 11/27 土 テーマ「文学研究から未来を考える――女性、環境、貧困」（英語文化学科公開講座）

岡本 晃幸（本学文学部英語文化学科 准教授）

「女たちのディストピア――マーガレット・アトウッド『侍女の物語』（1985）を読む」

本発表ではカナダ人作家マーガレット・アトウッドの『侍女の物語』（1985）を取り上げます。『侍女の物語』は、妊娠可能な女性たちが「侍女」と呼ばれる性奴隷として扱われる近未来を描いたフェミニズム・ディストピア小説です。アメリカの女性史などをふまえながら本作を紹介していきます。

ジェレミー・レッドリック（本学文学部英語文化学科 准教授）

“Representing Value and Interconnectivity in Yoko Tawada’s Eco-Texts”

（発表は英語で行い、日本語の説明がつきます）

This presentation will analyze the various ways that ‘value’ and ‘interconnectivity’ are represented in Yoko Tawada’s post 3.11 eco-texts. Focusing on the short story “The Island of Eternal Life” and the novel *The Last Children of Tokyo*, I will outline how Tawada explores the mutation of value in a world of environmental disaster, and how she examines the problematic interconnectivity of humans and environment through representations of contaminated bodies, soil, water, food, and language, all of which take on a different sense of ‘value’. Through this exploration of value and interconnectivity I aim to construct a coherent picture of Tawada’s post 3.11 ecological thinking.

大桃 陶子（本学文学部英語文化学科 准教授）

「可視化／不可視化されるアンダークラス――J・K・ローリング『カジュアル・ベイカンシー』（2012）が描く貧困」

J・K・ローリングが、<ハリー・ポッター>シリーズを完成させた後ではじめて発表した『カジュアル・ベイカンシー』は、ミドルクラスの人びとと貧困層であるアンダークラスの人びとの対立を描いた長編小説です。本発表では、ローリングが貧困層の問題を取り上げながらも、最終的にはその問題をうやむやにしてしまうという矛盾点について考えていきます。